

高校の部活壮行会。水泳部女子リレーメンバーが、屈辱の全裸生着替え

今日は1学期の終業式。

明日から夏休みだ。

体育館で全校生徒が集められて、終業式が行われていた。

私立T学院高等部では終業式後に部活の壮行会が行われる。

休み期間中に大きな大会に出場することが決まっている部活動の生徒が壇上に上がり、決意表明を行う。

今回、部活壮行会を行うのは野球部と水泳部の女子だった。

この2つの部活は夏休みに全国大会に出場することが決まっていた。

T学院高等部は野球部の強豪校として知られている。

他の運動部も全国大会に出場する部活もいくつかあったけど、この夏は野球部と水泳部の女子だけだった。

水泳部の女子は、個人戦で全国に行ける結果を出したものは、男子も含めて誰もいなかったけど、唯一水泳部の女子によるメドレーリレーのみで全国大会への切符を手に入れたのだった。

水泳部女子のメンバーは4人。

千葉聖菜、寺川陽菜乃、今井心彩、柴田光莉の4人だ。

全員高校3年生で、この夏の大会が高校生活最後の大会となる。

個人戦で全国に行けるレベルの選手ではないけれど、4人ともがそれに匹敵するくらいのタイムだったので、見事団体で全国大会への出場を決めたのだった。

終業式が終盤にさしかかってきて、千葉聖菜、寺川陽菜乃、今井心彩、柴田光莉の4人は、自分たちが並んでいるクラスの列から抜け出して、体育館の東の舞台袖を目指していた。

部活壮行会は必ず、壇上に上がる生徒はその部活のユニフォーム姿になることが決まりだった。

そのために競泳水着に着替えるために、舞台袖に行く必要があった。

終業式の後、そのままの流れで、部活壮行会はすぐに始まる。

舞台袖で着替えておいて、出番を待つという予定だった。

今回は、2つの部活のみが部活壮行会に参加する。

東の舞台袖で女子水泳部の4人が着替えて、西側の舞台袖で野球部がユニフォームに着替えるということだった。

千葉聖菜が、東側の舞台袖に到着すると、寺川陽菜乃、今井心彩、柴田光莉の3人もちょうど到着したところだった。

東の舞台袖には荷物がぎっしりと置かれていた。

T学院高等部の体育館は、この夏休みの間に

改修工事をする予定があった。

そのための、資材が体育館の舞台袖に、大量に運び込まれていたのだ。

「ねえー、これどうするの。着替える場所くない？」

「そうだよねえー」

千葉聖菜、寺川陽菜乃、今井心彩、柴田光莉の4人は顔を見合わせながら言っていると、後ろから先生が声をかけた。

「おーすまんなあー。ここはちょっと使えないから、お前たちも西側の舞台袖で着替えてくれるかー」

後ろから声をかけてきたのは、主幹教諭の男性教師だった。

「でも、西側って野球部が着替えてるんじゃないですか？」

寺川陽菜乃がそう疑問を呈した。

「あー、でも、そこしか着替えられるところないから。とにかく急いでくれ」

主幹教諭の教師にそう言われ、千葉聖菜、寺川陽菜乃、今井心彩、柴田光莉の4人は急いで西側の舞台袖へと向かっていった。

西側の舞台袖に到着すると、そこには野球部のメンバーが既にユニフォーム姿となっていた。

「さー、急いで着替えてくれ。もうすぐ出番だから」

主幹教諭の教師に4人はそう言われた。

「えっ、でも。普通に男子がいますよ」

千葉聖菜がそう言う。

「ああ、でもここしかないんだ。ちょっと我慢し

てくれ」

水泳部の女子 4 人の動きが固まった。

あり得ないよねという感じで、お互いの顔を見合わせていた。

一方で、野球部の男子たちは、その会話を耳をダンボにして聞いていた。

もしかしたら、水泳部女子たちが目の前で着替えるのを見れるかもしれないと期待が一気に高まっていた。

「先生、ちょっと待ってください。私たち、着替える場所は逆側の舞台袖で、そこは女子だけだと思って、タオルも持ってきてないんです。ここで着替えるなんて無理です」

寺川陽菜乃がそう言った。

「うーん」と主幹教諭の教師が頭をかきながら言う。

終業式に参加するので、最小限の荷物しか持ってきたくなかった。

そのため、女子たちは小さく折りたたんだ、競泳用水着しか、持ってきていなかったのだ。

着替え場所では当然、女子しかいないとっていて、それで、大丈夫だと思っていたからだ。

「すまん。恥ずかしいとは思いますが、ここで今すぐに着替えてくれ。野球部は見ないように」

主幹教諭が野球部のメンバーに向かってそう言った。

野球部のメンバーは、レギュラーと県大会の決勝にベンチ入りした総勢 18 人がこの場にいた。その 18 人全員が、すでに股間を膨らまし始めている。

「いや、あり得ないし」

「そうですよ。こんな状況で着替えられないです」

女子たちが口々に言う。

「おい、本当に頼むわ。ほら、もうすぐ、壮行会始まっちゃうぞ。今すぐ着替えてくれ。頼むからー」

40 過ぎの主幹教諭の教師が懇願するように女子たちに頼む。

(本当にここで着替えるの)

そういった気持ちで 4 人が顔を見合わせていた。

「おい、本当に頼むわ。もう時間がないんだ」

千葉聖菜、寺川陽菜乃、今井心彩、柴田光莉の 4 人は覚悟を決めるしかなかった。

「男子たち、あっちの方、向いとけー。こっち見るなよー」

主幹教諭の教師が言う。

「ほら、早く頼む」

水泳部女子の 4 人は制服を脱ぎ始めた。

まさかこんなことになるとは思ってもみなかった。

すぐ目の前に男子がいる状況で、制服を脱いでいく。

カッターシャツを脱ぎ去った。

4 人ともが下着を露わにさせている。

水着になるには、一度は裸にならないといけなかった。

スカートもすぐに脱いでいく。

そして、ついに覚悟を決めて、ほぼ 4 人同時に、